

平成21年度 第9回 鳥取市生活交通会議
議事要旨

1. 日時 平成22年3月24日(水) 13:30~15:00
2. 場所 鳥取市役所 本庁舎4階 第3会議室
3. 出席者
- | | | |
|--------------------|--|------|
| 会長 | 〔学識経験者〕 鳥取大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻准教授 | 谷本圭志 |
| 副会長 | 〔鳥取市〕 都市整備部長 | 田中政幸 |
| 委員 | 〔住民利用者代表〕 市自治会連合会(旧鳥取市,国府町,福部町) | 南部敏 |
| | 〃 (河原町,用瀬町,佐治町) | 谷村萬吉 |
| | 〃 (気高町,鹿野町,青谷町) | 水上洋八 |
| | 市老人クラブ連合会(河原町,用瀬町,佐治町) | 田淵丹次 |
| | 〔運送事業者〕 日ノ丸自動車株式会社 取締役営業部長 | 中村芳晴 |
| | 日本交通株式会社 バス営業部次長代理 | 岡本武志 |
| | 西日本旅客鉄道株式会社 鳥取鉄道部運輸科長 | 三谷宏志 |
| | 県ハイヤータクシー協会 | 橋本貞治 |
| | 〔運送事業者労組〕 私鉄中国地方労働組合 日ノ丸自動車支部鳥取分会執行委員長 | 村上恵 |
| | 〔中国運輸局〕 鳥取運輸支局主席運輸企画専門官 | 但住和雄 |
| 〔警察〕 鳥取警察署交通第一課長代理 | 山本一人 | |
| 事務局 | 鳥取市都市整備部交通対策室(中村、鈴木、遠藤) | |

協議事項

(1) 湖山循環バスの運行について

【事務局が説明】

- 水上委員 改善案で、1便は通勤・通学を考慮に入れていないのか。
- 事務局 湖山循環バスの趣旨と異なるため、通勤・通学は考慮に入れていない。
- 村上委員 考慮に入っていないとはいえ、学生に便を合わせれば乗客が増えると思う。出合いの森が朝開いていないという面もあるかもしれないが。
- 水上委員 このダイヤだと、通勤・通学の車利用を容認するものにならないか。
- 事務局 一人でも多くの人に利用していただきたいのは山々であるが、これまで意見を多く聞いてきたが、通勤・通学の利用はわずかであった。
- 水上委員 通勤・通学の問題は地域性もあり一概には言えないと思うが、これから公共交通について考えていく上で、通勤・通学をいかに取り込むかは非常に重要なポイントだと思う。
- 事務局 現在運行中の1便(8:10 湖山駅発)が利用者が少なく、病院やスーパー等の利用を考えて9時くらいから開始することが効率的ではないかと考えている。
- 水上委員 この地域は学校が多い。地域の住民の利便性を考えなくて良いのか気になった。この近辺にどの程度、通勤・通学の人がいるのかにもよるので一概にはいえないが。
- 谷本会長 昨年度アンケートをとっていて、その地域の人が何の目的にどういった手段を使っているのかについて確認している。この辺りでは中高生は自転車利用がほとんどである。大学生の利用があるか確認するということで、現在はダイヤを授業に合わせているが、ほとんどないというのが現状。
- 村上委員 桂見団地に多くの人がいるが、人口等のデータをとっているか。
- 事務局 とっている。若い人の割合が高い。
- 村上委員 桂見団地の小学生だと思うが、農協前の停留所から世紀小学校への利用が多い。そのあたりの利用を湖山循環バスでカバーできないかと思った。
- 事務局 桂見団地の中に入ることも検討したが、道路の幅員や積雪時等の問題で難しいという結論に至った経緯がある。
- 村上委員 尾崎病院は始発で9:20に到着するが、もう少し早くても良いかなと思った。早めてみる価値はあると思う。
- 南部委員 通勤・通学を対象にしていないとあったが、確かにこの辺りで循環バスを使って通勤・通学は少ないと思える。この地域の人々の利便性を考えると、この案で良いと思う。
- 橋本委員 バスは大型か？
- 事務局 約20人乗りの中型である。
- 橋本委員 継続を考えると、もっと小型のバスで運行し単価を下げる必要があるのではないか。
- 事務局 一番かかるのは人件費であり、車両を小さくしてもあまり経費は下らない。
- 橋本委員 運行継続を考えると、一日中バスというわけではなく、利用が少ない時間帯を例えばタクシーを使うといったように、経費削減を考えていく必要があるのではないか。

- 谷本会長 現在は実験で、どの程度の需要があるか確認している段階であるが、仮に本格運行となった場合は考えていかななくてはならない。あと、需要の話であるが、学生も雨の日等、朝は難しいかもしれないが帰りは利用できるはずである。それでも利用がみられないということは、朝通学に合わせても難しいのではないかとということが、実証実験によるデータで裏付けられると思う。
- 中村委員 通学時間のバスは実際にはある。布勢地区から湖山方面に行くバスは、既存路線として存在している。帰りも同じように逆コースもある。しかし、実際は自転車での通勤・通学がほとんどというのが実態である。確かに湖山循環バスで通勤・通学便を設置すれば多少は需要があるかもしれないが、大きく期待できないのではないかと。
- 水上委員 そういったバスが別にあるのであれば、湖山循環バスで通勤・通学に合わす必要はないと思う。
- 谷本会長 6月もまだ実証期間である。今後、通勤・通学への要望が多いようであれば、当然対応を考えていかななくてはならないが、まずはこの改善案で運行し、利用状況を確認するという事で承認いただけるか。
- 一 同 異議なし。

(2) 平成22年度鳥取市生活交通会議事業計画(案)・予算8(案)について

【事務局が説明】

- 水上委員 鉄道との連携を考えてほしい。採算性の悪いバス路線もあるが、もっと効率的にすることができるのではないかと。乗降データ等で分析して、統合等も考えていけるのではないかと。いろいろな見方で路線の再編を考えていく必要があるのではと感じた。
- 橋本委員 アンケートとあるが、アンケートの取り方はどうしているのか。
- 事務局 昨年度に実施しており、住民基本台帳から無作為抽出で郵送配布・回収している。回収率が約38%。
- 水上委員 運賃上限では、乗り継ぎの料金を考えるべきである。
- 事務局 乗り継ぎについては考慮する予定である。
- 田中副会長 国や県の補助制度がネックになって、思い切った検討ができなくなるということはないようにしてもらいたい。
- 但住委員 国の補助では基準があり、どうしてもその基準と異なると、国の補助を受けることができない。
- 田中副会長 現在、距離が長い路線は国の補助をいただいて何とか運行しているが、それをはずして再編するとなると、市の負担が増え、市が積極的に検討することが難しい。実験的な路線については国庫補助とする等、何か考えてほしい。
- 但住委員 本省の方でそういった決定がされているので、そちらにこういった意見があると伝える。
- 田中副会長 そこをクリアにならないと、市の負担が大きく増え、とてもじゃないができないと思う。あと、JRとの連携の話だが、JRとバス事業者でダイヤの調整等についての協議の場を持たないか。

- 三谷委員 今月新ダイヤに変更したが、次のダイヤに向けてはもう調整が始まっている。県の交通政策課が主催で、自治体の方も出席される、バスと鉄道とのアクセスについての会議が開催されており、そこで自治体からいただいた要望については次期ダイヤ改正で反映する予定である。全く今まで協議できていないということはないと思う。
- 田中副会長 例えば、JR からバスを乗り継いで通学する時に、始業に間に合うようにバスに乗るために、この時刻までに駅に着いておきたいとなった場合、JR のダイヤに反映するにはどうすればいいのか。
- 三谷委員 JR では各学校に始業時間等調査しており、それに合わせてダイヤを設定している。
- 田中副会長 その中ではバスダイヤとの調整は考慮されているのか。
- 三谷委員 調整はできていない。ダイヤがほぼ確定した段階でバス事業者に渡し、調整していただいているというのが実態。
- 中村委員 鹿野等は浜村駅でバスから JR に乗り継ぎできるように合わせているが、全便上り下りともに JR と合わせるの難しい。
- 水上委員 便数が限られている中で全て合わすのは無理だとは重々承知しているが、実際問題として、バスと JR を乗り継ごうとするときに待ち時間が発生するところがあるところが皆さんが一番不便に思っていることだと思う。難しいとは思いますが、そのあたりを何とかしていただきたいという思いはある。
- 三谷委員 どの時間帯のどの方面といった、具体的に目的が分かれば JR とバス事業者も調整する余地があると思うが、総論的な話になると何を基準に判断するかが難しいという面もある。
- 水上委員 基本的には通勤・通学だと思う。
- 三谷委員 島根県の例だが、バスと JR を乗り継ぐ場合、二重の定期代がかかり敬遠されているという話があった。そういう経費の問題もあり、実際にバスと JR を接続させても定期的に利用していただけるかという思いもある。ただ、現在もバス会社ともできるだけ合わそうとはしている。
- 田中副会長 再編をしようと思うと、相当なエネルギー、時間、お金がかかると思う。各方面から本腰をいれた協力が欠かせない。データ関係、情報等の提供もなくてはできない。ここで意思決定するのであれば、そのあたりも認識していただきたい。
- 谷本会長 同感である。今日はあくまで方針ということであるが、その後は各機関にも本格的な協力をしていただかなくてはならないと思う。
- これらの検討は、公共交通に関する議論の本質的な話であり、来年度の当会議の主たる議題として取り扱っていくという話でよいと思うが、了承いただけるか。
- 一 同 異議なし。

(3) 平成22年度実証運行効果測定等業務委託(案)について

【事務局が説明】

- 谷本会長 何か質問はあるか。なければ了承ということでよろしいか。
- 一 同 異議なし。

報告事項

平成21年度地域公共交通活性化・再生総合事業に関する事後評価（二次評価）の結果について

【事務局が説明】

谷本会長 質問・意見等あるか。

一 同 特になし。

以上